

組 織, 情 報, そ の 他

(1) 沿 革

昭和22年林政統一による機構改革にともない、林業試験研究機関を整備することになり、同年4月大阪営林局内の試験調査部門を編成がえのうえ農林省林業試験場大阪支場として局内に併置された。

関 西 支 場

- 昭和25. 4 京都市東山区七条大和大路に大阪支場京都分室設置さる
- 昭和27. 7 京都分室を廃止し、そのあとに支場を移転し京都支場と名称を改む
- 昭和28. 2 新たに伏見区桃山町に支場庁舎敷地として国有林の所属替をうけ同時に桃山研究室を設置した
- 昭和31. 3 庁舎、研究室を新築、移転
- 昭和34. 7 関西支場と名称を改む
- 昭和40. 3 研究室等を増改築
- 昭和41. 4 部制設置（育林、保護の2部）
- 〃 防災研究室を岡山試験地から移設
- 昭和51.11 庁舎、研究室（昭和31.3新築のもの）を改築

岡 山 試 験 地

- 昭和10. 8 岡山県上道郡高島村に水源涵養試験地として設置
- 昭和13. 1 林業試験場高島試験地と名称を改む
- 昭和22. 4 林業試験場大阪支場の所管となり、同支場高島分場と名称を改む
- 昭和27. 7 林業試験場京都支場高島分場と名称を改む
- 昭和34. 7 林業試験場関西支場岡山分場と名称を改む
- 昭和41. 4 林業試験場関西支場岡山試験地と名称を改む

(2) 土 地 お よ び 施 設

1. 土 地

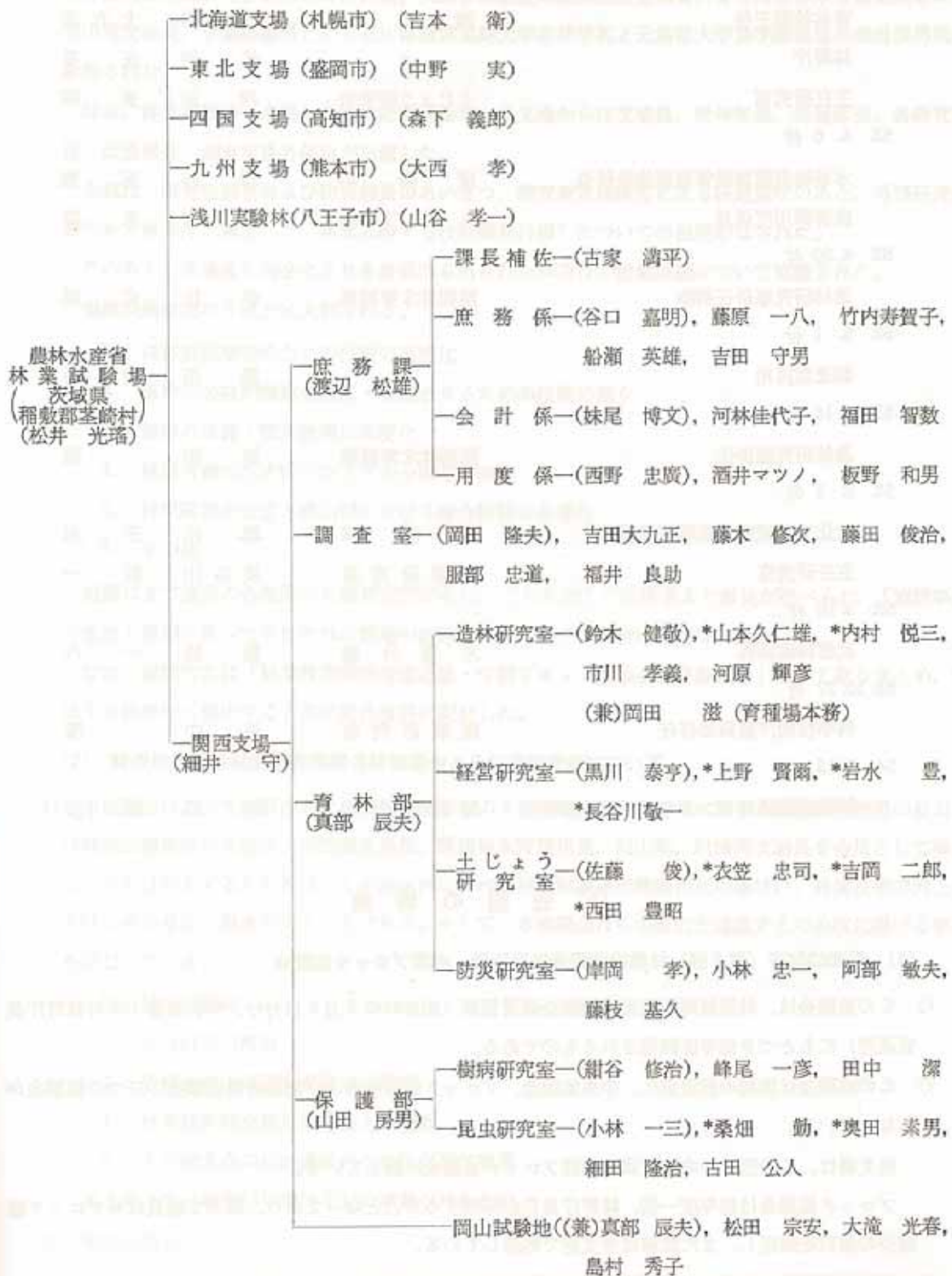
1. 庁 舎 敷 地

	関 西 支 場	岡山試験地
庁舎および付属敷	11,539㎡	1,999㎡
苗 畑	13,270	4,264
樹 木 園	7,862	5,991
見本林、実験林	27,998	67,897
計	60,669	80,151
2. 宿 舎 敷 地	9,373	915
3. 島 津 試 験 林	7,045	—
4. 宇 治 見 試 験 林	3,812	—
計	80,899	81,066

2. 施 設	内 訳	関 西 支 場		岡山試験地	
		5 棟	2,630㎡	1 棟	347㎡
	研 究 室 (新 館)		1,507		
	〃 (別 棟)		628		
	会 議 室		166		
	機 械 室		140		
	試 料 室		189		
	温 室	2 棟	139	—	
	ガ ラ ス 室	1 〃	61	—	
	隔 離 温 室	1 〃	51	—	
	殺 菌 培 養 室	1 〃	48	—	
	樹 病 低 温 実 験 室	1 〃	91	—	
	昆 虫 飼 育 室	1 〃	105	—	
	林 木 水 耕 実 験 室	1 〃	26	—	
	材 線 虫 媒 介 昆 虫 実 験 室	1 〃	41	—	
	研 究 資 料 調 整 室	1 〃	64	—	
	人 工 降 雨 室	1 〃	19	—	
	そ の 他	9 〃	377	7 棟	267
	宿 舎	17 〃	967	2 〃	195

(3) 組 織

(昭和54年3月31日現在)



注: { () はそれぞれの長
* は主任研究官

(4) 人 の う ご き

53. 4. 1 付

育林技術主任	調 査 室	吉 田	大 九 正
林野庁	々	並 河	正 男
主任研究官	土じょう研究室	西 田	豊 昭

53. 4. 6 付

本場総務部施設管理課施設係長	庶 務 課	酒 谷	正 憲
庶務課用度係長	九 州 支 場	西 野	忠 廣

53. 4. 30 付

造林研究室併任解除	関西林木育種場	伊 田	貞 雄
-----------	---------	-----	-----

53. 5. 1 付

調査室採用		藤 田	俊 治
-------	--	-----	-----

53. 5. 16 付

造林研究室併任	関西林木育種場	岡 田	滋
---------	---------	-----	---

53. 8. 1 付

東北支場庶務課職員厚生係長	庶 務 課	黒 田	正 志
主任研究官	経 営 研 究 室	長 谷 川	敬 一

53. 9. 16 付

庶務課庶務係	木 曾 分 場	藤 原	一 八
--------	---------	-----	-----

53. 10. 27 付

科学技術庁振興局併任	樹 病 研 究 室	田 中	潔
------------	-----------	-----	---

54. 2. 13 付

熱帯農業研究センター研究第一部併任	造 林 研 究 室	河 原	輝 彦
-------------------	-----------	-----	-----

(5) 会 議 の 開 催

(1) 昭和53年度（第6回）林業技術開発推進近畿・中国ブロック協議会

- 1) この協議会は、林業技術開発推進協議会運営要領（昭和48年6月8日付け、48林野第108号林野庁長官通達）にもとづき毎年度開催されるものである。
- 2) この協議会は協議の段階別に、中央協議会、ブロック協議会および都道府県協議会の三つの協議会からなっている。

当支場は、この区分の中の近畿・中国ブロック協議会に属している。

ブロック協議会は毎年度一回、林野庁長官が招集することとなっており、関西支場長は当ブロック協議会の運営を総括し、また庶務は当支場で処理している。

- 3) 53年度の近畿・中国ブロック協議会の概要は次の通りである。

昭和53年10月4日林業試験場関西支場会議室を会場として開催された。

出席者は近畿・中国ブロックに含まれる2府12県（石川・福井・三重・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山・鳥取・島根・岡山・広島・山口）の林務部局行政担当者および林業試験指導機関の長、林野庁研究普及課研究企画官および係長、大阪営林局技術開発担当企画官、また関西林木育種場長および同山陰支場長、学識経験者として石川県農業短期大学赤井学長と元京都大学農学部教官の柴田信男氏が参加された。

なお、林業試験場（本場）からは防災部長が、当支場からは支場長、育林部長、保護部長、各研究室長、庶務課長、調査室長外係官が出席した。

会議は、研究企画官および防災部長のあいさつ、研究普及課係官による経過説明のあと、再び研究企画官から林野庁で策定した“林業に関する技術開発目標”についての説明がなされた。

このあと、支場長の司会により各府県から出された24項目の提案課題について協議された。

協議課題は次の6区分に大別される。

1. 森林資源増強のための技術の高度化
2. 森林の公益的機能を維持・増進させるための技術の確立
3. 森林の保護・管理技術の高度化
4. 林業労働の生産性の向上と安全衛生の確保
5. 林家経営の安定と農山村における複合経営の合理化
6. その他

協議はまず提案の各機関から趣旨説明があり、これに対して出席者より意見が述べられ、「協議事案の処理」要領に従ってそれぞれの課題の処理についてのランク付けを行なった。

なお、協議内容は「林業技術開発推進近畿・中国ブロック協議会議事録要旨」として取りまとめ、54年1月林野庁へ提出すると共に関係機関に配付した。

(2) 関西地区林業試験研究機関連絡協議会とその研究活動について

- 1) 本協議会は、当支場管内および四国支場管内の2府16県の公立の林業に関する試験研究機関の長および林業試験場関西支場長、同四国支場長、関西林木育種場長、同山陰、四国両支場長を会員として構成し、その目的とするところは、この地区内における林業試験研究機関相互の連けい、林業技術の向上ならびにその普及、発達を図ることである。そして、本協議会はこの目的を達成するため次に掲げる事業を行なっている。

1. 総会の開催
2. 共同研究の推進
3. 研修会および研究発表会の開催
4. 林業技術開発推進協議会との連絡
5. その他本会の目的達成のために必要な事業

以上のうち、昭和53年度は下記の事業が行われた。

2) 第31回総会

昭和53年10月13日京都市左京区岡崎にある平安神宮会館で開催された。本年度は10月12・13日の両日京都市で開催された日本林学会関西支部の総会および研究発表会に引き続き開催することとして計画し

た。

会議では、まず過去1ヶ年間の各部会の共同研究の経過と今後の計画について協議が行われた。ついで国立林業試験場および林木育種場の業務の概要について説明があった。

3) 各部会活動の状況

当協議会には10の部会があったが、そのうち、更新および保育の両部会については合併の方向で検討が進められ、本総会において両部会を解消し、新たに育林部会を設立することと、樹木公害部会の名称を樹木保全部会と改めることが承認された。

部会活動には当支場研究員も参加し、共同研究の実施、研究情報の交換および助言など、公立研究機関との研究上の緊密な連絡を行なった。

なお、大阪営林局、高知営林局あるいは管外の公立林試が参加している部会もある。

昭和53年度中に行われた部会の開催は次の通りである。

部 会 名 (共同研究班)	開 催 月 日	開 催 場 所	当 番 機 関
樹 木 保 全	53. 8. 29	松 江 市	島 根 林 試
特 産 (マツタケ)	53. 9. 6 ~ 7	大 津 市	滋 賀 セ ン タ ー
林 業 機 械	53. 10. 5 ~ 6	松 江 市	島 根 林 試
経 営	53. 11. 7 ~ 8	徳 島 市	徳 島 セ ン タ ー
特 産 (シイタケ)	53. 11. 7 ~ 8	新 宮 町 (兵庫 県)	兵 庫 林 試
立 地	53. 11. 8 ~ 9	美 作 町 (岡山 県)	岡 山 林 試
育 苗	53. 12. 7 ~ 8	高 知 市	高 知 林 試
特 産 (ク リ)	54. 1. 23 ~ 24	新 宮 町 (兵庫 県)	兵 庫 林 試
育 種	54. 1. 30 ~ 31	広 島 市	広 島 林 試
育 林	54. 2. 6 ~ 7	高 知 市	林 試・四 国 支
保 護	54. 2. 8 ~ 9	山 口 市	山 口 セ ン タ ー

(3) 業務報告会の開催について

昭和52年度業務報告会を昭和53年6月6~9日の4日間にわたり開催し、各研究室および試験地毎に報告を行なった。

また、各研究室が共同で行なっている3課題については、育林・保護両部長が報告を行なった。

(6) 受託研究, 調査, 指導

用 務	委 託 者	用 務 先	実施期日	出 張 者	
				研 究 室	氏 名
「林業技術の現地指導」講師	東牟婁新宮林業改良普及協議会	和歌山県東牟婁郡古座川町	53. 7. 6 ～ 7. 8	経 営	岩水 豊
森林造成維持費用分担推進調査	水利科学研究所	奈良県吉野郡下北山村	53. 8. 28 ～ 9. 1	経 営	黒川 泰亨
〃	〃	〃	53. 8. 28 ～ 8. 31	防 災	岸岡 孝 阿部 敏夫
ダム建設用原石山採取の取扱に関する調査	日本林業技術協会	広島県山県郡加計町	53. 9. 11 ～ 9. 13	土じょう	佐藤 俊
航空機利用による林地除草研修会に関する講師	農林水産航空協会	山口県山口市	53. 9. 12 ～ 9. 13	育 林	真部 辰夫
植生及び土壌調査	日本林業技術協会	広島県賀茂郡黒瀬町	53. 11. 12 ～ 11. 18	土じょう	吉岡 二郎
森林造成維持費用分担推進調査	水利科学研究所	和歌山県東牟婁郡熊野川町	53. 11. 15 ～ 11. 18	経 営 防 災	黒川 泰亨 岸岡 孝 阿部 敏夫
キノコ経営改善簿記研修会の講師	三重県林業技術センター	三重県一志郡白山町	53. 12. 17 ～ 12. 18	経 営	黒川 泰亨
間伐材利用量の調査法の調査	日本林業技術協会	東 京 都	54. 2. 13 ～ 2. 16	経 営	上野 賢爾

(7) 当 場 職 員 研 修

氏 名	研 修 先	研 修 期 間	研 修 内 容
藤 田 俊 治	奈良県立青年の家	53. 5. 23～ 5. 26	昭和53年度中級・初級試験採用者研修
西 田 豊 昭	筑波農林研究団地 共同利用研修施設	53. 12. 5～ 12. 8	昭和53年度農林水産試験研究機関研究員の 公害等に関する研修
藤 枝 基 久	〃	54. 1. 16～ 1. 27	昭和53年度農林水産省試験研究機関等研 究員の数理統計短期集合研修
竹 内 寿賀子	農林水産研修所	54. 2. 18～ 3. 3	昭和53年度初級事務職員研修

(8) 技術研修受入れ

氏 名	所 属 機 関	研 修 期 間	研 修 内 容
松 田 正 宏	福井県林業試験場	53. 6. 1～ 8. 31	多雪地帯における育林技術の確立に関する研究
真 神 康 三	兵庫県立林業試験場	53. 9. 1～ 9. 30	苗畑病害についての研究手法
富 田 ひろし	三重県林業技術センター	53. 9. 1～10. 31	樹病（変色材発生要因に関する研究）
吉 田 公 人	栃木県林業センター	53. 9. 1～11. 30	タケ・ササ類の品種の同定法ならびに優良竹生産技術について
田 中 義 則	兵庫県立林業試験場	54. 2. 5～ 3. 6	樹体分析方法の技術修得および研究

(9) 海 外 出 張

氏 名	出 張 先	出 張 期 間	研 究 課 題
田 中 潔	ア メ リ カ	53. 11. 1 ～54. 10. 31	大気汚染に伴って発生する病害のメカニズムと指標性に関する研究
河 原 輝 彦	フ ィ リ ピ ン	54. 2. 14～ 4. 12	人工造林地の林分生産に関する研究

(10) 見 学 者

(53. 4. 1～54. 3. 31)

区 分	件 数	人 数	一 般 公 開		計		備 考
			件 数	人 数	件 数	人 数	
国	78	158		17	78	175	
府 県	31	123		64	31	187	
学 校	大 学	3		26	3	60	
	その他	4			4	186	
団 体	24	45		11	24	56	
一 般	28	52		233	28	285	
外 人	14	35			14	35	
計	182	633	1	351	183	984	フィリピン、台湾、ニカラグア、ドイツ、韓国、マレーシア、インドネシア、ウルグァイ他

(11) 一般公開について

「発明の日」(4月18日)を含む一週間を、国は科学技術週間として各種の催しを行なっているが、この週間にちなんで4月21日に支場創設以来初めての一般公開を行なった。シンボルテーマは「森林と私たちの生活—その研究—」で各種施設の公開、実演、さし木、つぎ木の実施指導、林業相談所の開設等を実施した。

なお、この日の来場者は約350名であった。